

人吉市童話発表大会の指導方法〔保護者（指導者）のために〕

多く子どもたちに参加を促していただきたいと思い、童話の話し方の指導について、次のとおりまとめましたので参考にさせていただきたいと思います。

【本の選び方】

- 限られた時間で話さなければなりませんが、できるだけ子どもが意欲を持って話したいと思う本を選ぶように助言等をいただきながら、サポートしていただくことが大切です。
- 時間内で終わるお話しを選んだり、長いお話しでもお話しがわかるように短く工夫することも必要です。

【読み取り方】

- まず、素直な心で文章を丁寧に読ませ、きれいな心で話しの内容をつかみましょう。その話を何度も読み込ませながら、筋、内容、場面、人物像などを十分つかませながら、この話は、私たちに何を話しかけているのか、子どもなりに理解させることが大切です。
- 子どもが十分理解できない時は、保護者（指導者）の方がうまく指導して内容をイメージ豊かにふくらませ、読みの力をつけながら、理解を深めさせることが大切です、話しぶりに生きてきます。

【お話し仕方】

- 本の文章をそのまま暗唱し、すらすらと述べるのではなく、よく読み込んでお話しの中身が理解できたら、自分たちがふだん使っている言葉で再表現させることが「お話し」になります。聴いている人がわかるような言葉を選ぶことが大切です。
- お話しの形式の中には、いろいろな表現上の特徴がありますが、発表の際は、無理をせず、自然に出てくる声の高さや低さ、速さや遅さ、手振り身振り、言葉一つひとつをはっきり言いながら、間を取るなどの工夫が大切です。
- マイクを使いますが、接近しすぎて声が割れたり、離れすぎてよく聞き取れなかったりでは、お話しが台無しになりますので、マイクに慣れさせることも重要です。
- 演劇とは違いますので、お友達やお父さんお母さんに自然に話しかけるつもりで話してみましよう。

【まとめ】

この童話大会は、子どもたちが自分で読んだ本の中からおもしろいと思ったお話を、自分なりにまとめ、ふだん使っている言葉で友達に話して聞かせるということが大切です。話す側が子どもで、聴くものも子どもであることを認識して指導にあたられるようよろしくお願いします。